

事務事業チェックシート

事務事業No

事業名

[事業基本情報]

540

初期救急医療体制整備事業

[長期総合計画]

分野別目標	4	誰もが安心して住み続けられる持続可能なまち
政策	7	健康で元気に暮らせる環境づくり
施策	2	地域医療・健康危機管理体制の充実
取組方針	3	救急医療体制の充実

事業区分(1)	事業経費	○	管理経費	
	その他			
事業区分(2)	自治事務	○	法定受託事務	
	その他			
会計・ 予算区分	会計		一般会計	
	款		衛生費	
	項		保健衛生費	
	目		地域医療対策費	
	大事業		地域医療対策事業	
中事業		初期救急医療体制整備事業		

事業種別	継続		関連個別計画	
事業年度	無し	～	無し	担当課・担当課長・Tel 総務企画課 丹生哲哉 488-5102
事業実施の根拠法令			関連課	

1 事業内容

事業目的	(「誰・何」をどういう状態にするための事業か)		全体事業概要		
	和歌山市夜間・休日応急診療センターを運営し、市民に対し、初期救急医療を提供する。		夜間・休日における急な病気に対応するため、初期救急医療体制を整備する。		
事業内容	平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
	応急診療センターの運営補助を行った。また、利用者の利便性向上を図るとともに、初期救急医療の適正受診等についての啓発を行った。	応急診療センターの運営補助を行う。また、利用者の利便性向上を図るとともに、初期救急医療の適正受診等についての啓発を行った。	応急診療センターの運営補助を行う。また、利用者の利便性向上を図るとともに、初期救急医療の適正受診等についての啓発を行う。	応急診療センターの運営補助を行う。また、利用者の利便性向上を図るとともに、初期救急医療の適正受診等についての啓発を行う。	応急診療センターの運営補助を行う。また、利用者の利便性向上を図るとともに、初期救急医療の適正受診等についての啓発を行う。

2 事業コスト

事業費等(千円)	平成31年度		令和02年度		令和03年度		令和04年度		令和05年度	
	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	当初予算	決算	計画	決算
事業費	85,638	85,024	91,898	180,659	91,601	101,005	94,166	0	94,166	0
伸び率(%)	△6.6%	△6.9%	7.3%	112.5%	△0.3%	△44.1%	2.8%	△100%	0%	0%
人件費	正規職員	3,705	3,705	3,663	3,822	3,103	4,422	4,034	0	0
	正規職員以外	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	3,705	3,705	3,663	3,822	3,103	4,422	4,034	0	0
国庫支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
県支出金	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
市債	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他	443	0	522	0	522	0	522	0	522	0
一般財源(税等)	85,195	85,024	91,376	180,659	91,079	101,005	93,644	0	93,644	0
所要人数(人)	正規職員	0.46	0.46	0.46	0.48	0.40	0.57	0.52	0.00	0.00
	正規職員以外	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
主な予算内訳	光熱水費4,710千円、応急診療センター補助金86,872千円									

3 目標及び実績

活動指標	指標名	単位		平成31年度	令和02年度	令和03年度	令和04年度	令和05年度
				目標値	実績値	達成度(%)	目標値	実績値
救急医療の適正利用に係る啓発		回	目標値	5	4	4	4	
			実績値	4	4	4		
			達成度(%)	80%	100%	100%	%	
急病患者の安心度		%	目標値	90	90	90	90	
			実績値	73.5	75.4	79.7		
			達成度(%)	81.7%	83.8%	88.6%	%	
受診患者数		人	目標値	30000	30000	30000	30000	
			実績値	27869	12213	19253		
			達成度(%)	92.9%	40.7%	64.2%	%	

4 事業の評価

評価基準					
[妥当性]事業のニーズはあるか		増加している	○	横ばい	減少している
[妥当性]事業手段は妥当か	○	現行の手段でよい		一部見直しが必要	見直しが必要
[妥当性]官民の役割は妥当か	○	市が行うべき		他の主体との協働も可能	市が行う必要性は薄れている
[妥当性]緊急的に取り組む必要があるか		急いで取り組む	○	中長期的に取り組む	緊急性は薄い
[有効性]更に効果が期待できるか	○	できる		あまりできない	できない
[有効性]成果目標ほどの程度達成しているか		達成している (90%以上)	○	おおむね達成 (70~90%未満)	達成していない (70%未満)
[有効性]上位施策への貢献度	○	重要かつ高い貢献度がある		一定の貢献度がある	貢献度は低い
[効率性]事業費を抑制できるか	○	できない		制約はあるが可能性はある	できる
[効率性]受益者負担の見直し	○	適正		負担は求められない	見直しが必要

5 今後の方向性 (担当課評価)

事業内容の方向性	充実				
	現状維持			○	
	縮小				
	廃止				
		ゼロ	縮小	現状維持	拡大
コスト投入の方向性					

担当課評価の根拠	初期救急医療体制の整備は市の責務であり、患者の多寡に関わらず、安定的な事業運営が求められるため、現状を維持する必要がある。
見直し・改善内容	応急診療センターの受診者数は感染症の流行状況に大きく左右されるため運営が不安定になりがちである。運営の安定化を図るため、救急医療の適正利用に係る啓発を継続し、軽症患者の集約に努める必要がある。